



福島県立盲学校高等部普通科は、総合的な学習の時間の一環として、本校周辺の高校JRC部員と各種スポーツを通じた交流活動を実施しています。

この活動は10年以上にわたり継続され、本校生が活動内容やスポーツ種目を決定し、主体的に運営に携わる機会となっています。

これまでに、フロアバレーボールやフライングディスクなどのスポーツを取り上げてきましたが、今年は、パラリンピックで注目されたポッチャによる交流をしました。

本校生は体育の授業で経験した上で、他校生と混合チームを

高校のJRC部と10年以上交流

高校生と一緒にポッチャを楽しむ盲学校生徒

編成しプレーしました。他校生にとっては初めての競技でしたが、本校生がその都度分かりやすくルールを補足説明しながら試合を進めました。

ジャックボールの方向や距離を、他校生が言葉や身体を使って本校生に伝える様子が見られました。さらに、本校生がボールを投げるタイミングや力加減を他校生にアドバイスしながら一緒に戦略を練る姿は、「共に生きる社会」実現への一歩であると感じました。

2時間ほどのスポーツ交流ですが、終了後は、それぞれの立場でお互いに対する理解を深めた感想が多く挙げられ、スポーツを通じた同年代の触れ合いの重要性が伝わってきました。

今後も、障害者スポーツの普及啓発とともに、個々の生徒にとって、社会生活経験の拡大につながる有意義な活動として継続していきたいと考えています。

(平祥江・福島県立盲学校教諭)